

大学評価フォーラム

**内部質保証システムの充実をめざした
アカデミック・リソースの活用**

～個性ある大学づくりのために～

配 布 資 料

個性ある大学づくりと 評価文化の定着

川 口 昭 彦
大学評価・学位授与機構

評価文化の定着と大学の個性化

- 評価文化の定着？
- 大学評価の効果・影響そして課題
- 大学の個性や成果を可視的に観せる
- フォーラムの趣旨

評価文化の定着？

- 評価文化：評価情報を自ら価値づけ、次の活動を選択していくこと。
- 今まで評価文化を醸成・展開してきた。これからは評価文化の定着を図る時期！
- 「定着」とは、大学が評価結果を戦略的に活用し、大学の発展（個性化）を図ることをさす。
- 次の段階の「成熟」とは、関係者（ステークホルダー）が評価情報を有効に活用することをさす。

3

各大学における評価の効果・影響

- 教育研究活動の状況や課題の把握に役立つ。
- 全学マネジメントや教育研究活動の改善促進につながる。
- 部局間の壁、教員間の壁が低くなる。学内における基本的情報の収集、整理、共有化が進みつつある。

4

評価文化定着の課題

- 教職員の意識への効果・影響については、一定の成果が窺えるが、全構成員に浸透するまでには至っていない。
- 「評価によって大学の個性化を図る」という目的が充分には果たされていない。
- 各大学は、資料の収集・選択に困難を感じている。評価担当者は、資料の不備・不足、提示方法の改善を求める意見が多い。
- 「評価疲れ」が懸念されている。

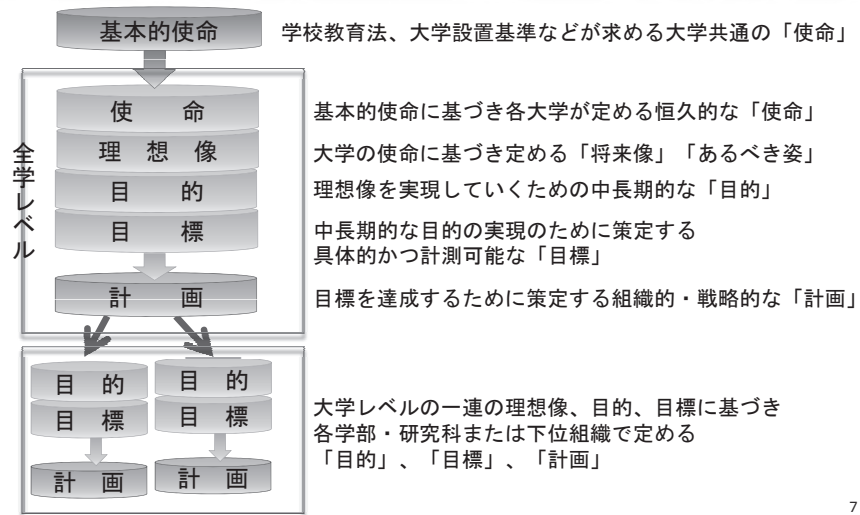
5

課題解決のためには・・・

- 大学の使命、理想像、目的などを明確する。それらを全構成員に共有化を図り、社会に向かって発信する。
- 大学の内部質保証システム（自己評価体制）を整備する。
- 評価に必要な資料・データの日常からの収集・分析を進める。
- 教育研究の成果（アウトカム）を可視的に社会に示す。

6

使命・理想像・目的・目標・計画



7

大学がもつリソースの把握と活用

アカデミック・リソースの把握と活用



8

目的・目標の明確化には・・・

- 大学自身のリソースを的確に把握する。
- リソース把握のツールの一つとして、ティーチング・ポートフォリオやアカデミック・ポートフォリオの作成。
- 大学の「個性化を促進する」ためには、自らのリソースを把握した上で、目的や目標が設定されなければならない。

9

アカデミック・リソースの把握のために

- 「アカデミック・ポートフォリオとは」 Prof. Peter Seldin (Pace University)
- 「アカデミック・ポートフォリオの導入事例」 Prof. Jeff King (Texas Christian University)
- パネルディスカッション
- アカデミック・ポートフォリオ作成のためのワークショップ(8月4日)

10